

【しにそう】 だから 【ライブする】

Tkmraeua2341

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ここは転生者掲示板！

転生先でのすったもんだをスレ民に共有しみんなで楽しめる場所だよ！

今日も困っている転生者がスレを建ててはおもちやにされたり助けられたりと翻弄されっぱなしさ！

…というわけでよく見る転生者達による掲示板です。

一応主人公は落ち着いた雰囲気させるつもりです。

# 目次

TSサキュバス、処女だったよ。	1
第2話	13
第3話	20
第4話	31
【TS】 桃太郎と愉快な仲間たち【エロ同人の予感】	34
【TS】 桃太郎と愉快な仲間たち【エロ同人の予感】 2	40

TSサキユバス、処女だったよ。

1：名無し転生者

これは私が最期になると感じたために建てたスレです。

今まで存在は知ってましたがよく分からなかったので後回しにし続けて今まで忘れていましたが、この際なので使い方を何となくでも学習して今にいたります。

新しい性を授かり新しい生を頑張つて来ましたが、もはやここまでのようです。

なので、ここに私が氏んでしまつても私が生きていたという証として不可視カメラ and マイクでライブしようと思いました。

2：名無し転生者  
なげえ

3：名無し転生者  
なんだこいつはたまげたなあ

4：名無し転生者  
イツチピンチ

5：名無し転生者  
つまり？

6：名無し転生者  
イツチ氏ぬ前ビデオレター

7：名無し転生者  
なるほどわからん

8：名無し転生者  
まずイツチコテハンはや、後もつと自分のキャラ描写して

9：名無し転生者  
というより自語りしよ

10：名無し転生者

ここは転生者掲示板！困ったらここにスレ建てだ！転移組もいるぞ！

11：TSサキュバス

とりあえずコテハンで察して

12：名無し転生者

(ガタツ!!)

13：名無し転生者

(ガタツ!!)

14：名無し転生者

(ガタツ!!)

15：名無し転生者

ステンバイ(、・ω―)??ト?一

16：名無し転生者

∩(、ω、∩)∑≡GO!!

17：名無し転生者

問おう、桃髪おっパイか?

18：名無し転生者

いや黒髪清楚(ビッチ)だな?

19：名無し転生者

メスガキだったりしない?

20：名無し転生者

未亡人系の幸薄美女であれ

21：名無し転生者

たとえばどんな見た目でもこれから公開処刑になるのか…

22：名無し転生者

スツ…

23：名無し転生者

スツ…

24：名無し転生者

(ガタガタツ!!)

25：名無し転生者

ドンガラガツシャーン!!

26：名無し転生者

とてもこれから人の氏を立ち会う者たちには見えない

27：TSサキュバス

別にいいですよ、後私のスペック載せますね。

緑髪ショートボブ

微乳よりの普乳

安産尻で美脚

身長170cm体重61kg

翼と尾も濃い緑色

28：名無し転生者

ほう：下半身特化ですか

29：名無し転生者

たいしたものですね

30：名無し転生者

てかデブくない？ぽっちゃり？

31：名無し転生者

翼と尾があるからでない？

32：名無し転生者

美脚ぽっちゃりは：うーん

33：名無し転生者

まあこれから見れるしええやろそんときで

34：名無し転生者

あ、そいやなんでしぬのん？

35：TSサキュバス

それは：あ、執行人が来たからもうライブつけますね。

それでは皆さんさようなら

L i v e o n

36：名無し転生者

はじまた

37：名無し転生者

うお

38：名無し転生者

な、

39：名無し転生者  
なんで全裸!?

40：名無し転生者  
緑髪の美女の全裸!!

41：名無し転生者  
美女の全裸と聞いて

42：名無し転生者  
同じく

43：名無し転生者  
おほー絶景じゃあ!!

44：名無し転生者  
俺の嫁にする! 決定事項だ!

45：名無し転生者  
いや俺のだ!

46：名無し転生者  
おれだあ!

47：名無し転生者  
わしのだ!

48：名無し転生者  
うちのだあ!

49：名無し転生者  
でもこれから氏ぬんすよね

50：名無し転生者  
カナシイナア:

51：名無し転生者  
ア、ア、ア:

52：名無し転生者  
おい今すぐこの状況を打破する方法を考えろ!

53：名無し転生者  
ム☆リ☆ダ

- 54：名無し転生者  
そこをなんとかするんだYO！
- 55：名無し転生者  
だって手足鎖で繋がれてるし
- 56：名無し転生者  
てかここどこなん？ホテル？
- 57：名無し転生者  
鎖のせいでSM系のラブホにしか見えん
- 58：名無し転生者  
まあ全裸でベッドに寝かされてるからな（鎖付き）
- 59：名無し転生者  
あらあら姉御系の綺麗な顔が青ざめてますわ
- 60：名無し転生者  
瞳のハイライトも消えちゃまって
- 61：名無し転生者  
大変えつちだあ…
- 62：名無し転生者  
ん？誰か部屋に入ってきた？
- 63：名無し転生者  
おいおいなんだあの美女は
- 64：名無し転生者  
どう見てもヤリ手のサキュバス
- 65：名無し転生者  
桃髪おっパイ好きのワイ大勝利
- 66：名無し転生者  
てことは…このお姉様にイッチはコロコロされるんか

『やっと捕まえたわエスメラルダ、いえエメちゃん。あなたのこと…  
ずっと探してたのよ？』

『…ルビー』



『ああ…あなたに名前を呼ばれるだけで嬉しくなるわ♪もう結婚しましよっ。』

『いやです』

『相変わらずつれないわねえ』

67：名無し転生者

ほーん、イツチの名前はエスメラルダ、桃パイはルビー様か…

68：名無し転生者

待って、これから氏ぬんやろイツチ…どうやって氏ぬんや？

69：名無し転生者

密室、サキユバスとエツチなお姉様、2人つきり…ナニも起きないはずがなく

70：名無し転生者

ナニをするんだろうなあ

71：名無し転生者

ナニに決まってるよなあ！つまり…ワイらにオカズ提供したこと  
に？

72：名無し転生者

なっちまうなあ

73：名無し転生者

ありがとう、その言葉しか見つからない

74：名無し転生者

女が希少な世界のワイ大感謝

75：名無し転生者

感謝っ!!圧倒的感謝っ!!

76：名無し転生者

なんか転生先が地獄なやつがいますねえ

77：名無し転生者

てかイツチどうしてこうなったん？

78：名無し転生者

教えてルビー様ー!!

『もうほんとに苦勞したんだからねエメラ、私みたいな上級サキユバスと違ってあなたは下級、それも魔力が低いから探知魔法にはかかりにくいし、男の性欲から違和感あるところを片っ端から回って行ったのよ?そしたらあなた、森の近くで行き倒れてたんだもの。一体何してたの?』

『…森の大杉と同化してました』

『え?』

『植物と同化して栄養を得ていました』

『…』

79 : 名無し転生者

え

80 : 名無し転生者

えw

81 : 名無し転生者

あまりにももの状態でルビー様絶句w

『そ、そんな状態じゃなんにもタノしめなかつたんじゃない?だからあの時私が養おうかって聞いたのに』

『黙れ淫乱』

『あら辛辣、そんなところもかわいいわよ?』

82 : 名無し転生者

なんか背景が見えそうで見えない会話しとる

83：名無し転生者

てかこれからイツチコロすのならルビーすっげえサイコじゃん

84：名無し転生者

様をつけやがれデコ助野郎!!

85：名無し転生者

あ、もしかして：

86：名無し転生者

なにか気づいたのか雷電！

87：名無し転生者

イツチってTS：つまり元男なんだよね？

88：名無し転生者

おん、つまりどういうことや？

89：名無し転生者

男から雌に落とされる、つまり自分の中の男が氏ぬってことだった

んじゃ？

90：名無し転生者

あ：

91：名無し転生者

雌落ちと聞いて

92：名無し転生者

全裸待機

93：名無し転生者

そういう事か

94：名無し転生者

なんかイツチもみんなも軽いなって思ったらそういう？

95：名無し転生者

いや今更しぬからって言われても大抵のやつは恐怖克服してます

し

96：名無し転生者

なんなら3周目や5周目のやついるから

97：名無し転生者

人生はフロムゲーだった？

98：名無し転生者

てかルビー様おまたにマール様つけてない？

99：名無し転生者

あ（察し）

100：名無し転生者

イツチ？いいやつだったよ…

501：TSサキユバス

生き残ってしまった

502：名無し転生者

よ、イツチ：処女卒業おめでとう

503：名無し転生者

初めてであそこまでイけるのはルビー様がすげーのかイツチがド  
スケベなのか

504：名無し転生者

どっちもでは？

505：TSサキユバス

セヤナー

506：名無し転生者

てかもうイツチのコテハンエメちゃんちやんでよくね？

507：名無し転生者

まあずつとエメちゃんエメちゃんってルビー様叫んでたし

508：名無し転生者

もうイツチよりエメちゃんの方がいい気がする

509：TSサキユバス

じゃあもう開き直る

510：メス堕ちエメちゃん

これでよし

- 511：名無し転生者  
開き直りスギイ！
- 512：名無し転生者  
でも嫌いじゃないわ!!
- 513：メス堕ちエメちゃん  
てかどうして500スレまで使ってるの？そんなコメントするこ  
とあったの？
- 514：名無し転生者  
興奮して実況してました
- 515：名無し転生者  
特にk s kしたのはエメちゃんから腰を使いだした時
- 516：名無し転生者  
必死に声我慢してるのに突き上げられて漏らしちゃった時も
- 517：名無し転生者  
大変お世話になりました、早速使わせていただきます。
- 518：メス堕ちエメちゃん  
あーうん、もういいよ。私も吹っ切れちゃったし
- 519：名無し転生者  
いいんだw
- 520：名無し転生者  
まあこんなの流しちやつてる時点でもう…ね？
- 521：メス堕ちエメちゃん  
とにかくもう眠いから落ちるね、おつー
- 522：名無し転生者  
おつー
- 523：名無し転生者  
ばいおつー
- 524：名無し転生者  
おつー
- 525：名無し転生者  
おつー

526：名無し転生者

おつー

527：名無し転生者

今後も提供よろしくお願いします

528：名無し転生者

おつー

529：名無し転生者

：いったかな？

530：名無し転生者

もうイツたな

531：名無し転生者

おうその汚いのしまえよ

532：名無し転生者

布でふきふき

533：名無し転生者

性奴隷の口にズボズボ

534：名無し転生者

そのまま朝までコースか

535：名無し転生者

もう朝ですぞ旦那

536：名無し転生者

そうか…そっちは朝か…

610：名無し転生者

ちよつと雑談に使い過ぎたかね？

611：名無し転生者

保守だけのつもりが…

612：名無し転生者

みんなエメちゃんが悪いんや！

613：名無し転生者

なんだって？それは本当かい？!

614：メス堕ちエメちゃん

タスケテ

615：名無し転生者

ん？

616：名無し転生者

どうしたんだエメちゃん、おじさんが話を聞こう

617：名無し転生者

どうした、相談のるよ

618：名無し転生者

んで、その後会える？

619：名無し転生者

本性現したわね

620：名無し転生者

んで実際どつたの？

621：メス堕ちエメちゃん

天使に攫われた

622：名無し転生者

：どうしてそうなった？

## 第2話

私、エスメラルダは転生者である。

生まれた時から自我がはつきりしていたパターンだ。

最初は驚いたし絶望もした。

もう家族には二度と会えないんだと直感的にわかってしまったからだ。

まあ今の母上のお乳をもらうときにこの世の全てに感謝を捧げたものだ。

乳は絶望から救ってくれる、これが母上からの一番最初の教えだった。

それから1年程で話して歩けるようになった。

成長が速い気がするが、中身が私だったからだと思う。

確かその頃にあの子、ルビーに会ったのだ。

本当の名はルビアンナ、親しい者にはルビーとよく呼ばれていた。

その頃からルビーはとても愛らしい娘だった。

ピンクの癖毛はふわふわで綺麗だし。

名前通り彼女の瞳はルビー色に輝いていた。

今世の私も少し癖毛で綺麗だがあんな見事な髪はそうそう見られないだろう。

瞳だってそうだ、私は前世と同じ黒い瞳なせいでまるで髪を染めたヤンキーのように見えるのに。

だが私は精神的に大人だった、少なくともルビーよりは大人だったのだ。

だからかルビーと一緒にいる時はよく世話をしたり助けたりしてお姉さんぶっていたと思う。

ただルビーとは同じ年だったのでお姉様とか呼ばれたりとかはなかった。

ルビーは小さい頃はよく転ぶ子だった。

だからルビーという時はよく手を繋いでいた。



それからお互い歳を重ね成長し、学校に行くようになった。

そこで私は勉強ができるぼっちになり、ルビーは女子のカースト  
トップになっていた。

ルビーは本当に頭がよくカリスマも持っていたのだ。

そんなルビーと幼馴染と言うだけで対等に近い存在になった私は  
：必要な時に知識を教える程度のぼっちになってしまった。

まあこれはいい、別に苦しくはなかった。

そして13歳になり私とルビーは学校を卒業した。

ここから何故か旅に出なければ行けなくなった。

武者修行だの結婚相手探しだの：正直急すぎてよく分からなかつ  
た。

それはルビーのとも同じだったようだが、ルビーは楽しそうにし  
ていた。

そしていざ旅に出るとルビーが一緒に着いてきた。

「エメちゃんと二人なら安心だから！」

確かこう告げられたか。

一体どこにそんな確信があるのか聞きたかったがやめといた。

私も孤独感や不安を小さく出来るし、守る者がいるという責任感が  
生まれ私を強くしてくれるようだったからだ。

こうして始まった二人旅だが、お互い18歳になる頃に大きな変化  
があった。

まず魔力量で差ができた。

私の魔力量は14歳の頃から全然増えないのにルビーはずっと増  
え続けている。

別れるその時も、再会した時も増え続けていたのだ。

外見でもそうだ。

私は確かに美人だ、前世なら：だが。

ルビーはさらにその上だ。

綺麗とかかわいいが同居しながらエロスで溢れた彼女によく骨抜き  
にならなかつたと思う。

知識でもなんでも私の上をいき、私は自然とルビーのメイドのよう

になっていた。

別にそれはいいのだ、私はルビーが相手ならそれでも良かった。ただ、ルビーは：その頃からとても天狗になっていた。彼女はずつと出来すぎたのだ。

鼻をへし折れる程の猛者が近くにいなかったのもあるが私も含め彼女に逆らわない者たちで囲われていたのも原因だろう。

そんな中で彼女がとある事件を起こした。

幼い天使を捕まえてしまったのだ。

たまたま天使はその日下界に降りて遊んでいたらしい。

その幼く美しい姿を淫らに彩ってしまいたい、と考えてしまったサキュバスがいた。

それがルビーだった。

私は反対した、すぐに逃がすべきだと。

もしかしたらルビーに反抗したのは初めてかもしれない。

でもそれくらいまずいことになると思っただからだ。

だがルビーは聞かなかつた。

どうしてもあの無垢な存在を汚したいらしかった。

だから私は：その天使を無断で逃がすことにした。

もちろんすぐにばれたが、そこに天使たちが突入してきた。

そこからはもう乱闘状態で、逃がすはずの幼い天使が流れ弾で怪我をしそうな程だった。

嫌な予感がしてその子に抱きつき覆いかぶさつたと同時に私の背中を光弾が焼いた。

とてつもなく痛かったが腕の中で震える存在にまだ幼かったルビーを重ねてしまった。

明らかに違うのに、ルビーと同じように見てしまいあの子をもう放っておけなくなった。

あとはもうその子を抱き上げて全力で逃げだした。

途中、何発か攻撃を受けたが動けるので問題なかった。

そうして幼い天使を天界まで送った後、まだ続いていた争いを仲裁しようとした。

まあ、途中でルビーと天使の隊長格な女性に吹き飛ばされたが。それで飛ばされた先の大杉に体が引つかかった。もう体も限界で魔力もそんなに：いや少し残っていた。そこで私は残った魔力を全て使い寄りかかった大杉と同化した。そして1年ほど魔力をためルビーの所に魔力で出来た私の人形を送った。

その人形越しにルビーと話をしたのだ。まずは私がいなくなつてすぐのこと、天使との和解や私が担当していた仕事についてなど。

結構話したが1番分からなかったのは、私の代わりになれる者は集まるがある程度したら辞めさせてしまうことだった。

何故辞めさせるのかと聞いてもルビーは不貞腐れて何も答えない。しようがないのでこれでもう帰ろうとした時、ルビーに慌てて呼び止められた。

「一生養うから一緒にいない？」

固まった。

まさかの紐になれ発言だ。

断固として拒否しても駄々をこねられ仕舞いには私（人形）を抱きしめて離さない始末。

1年間かけて作ったハイスペック人形だがやむを得ん。

私は人形の魔法を解きただの魔力に戻していった。

それからしばらくして私が24歳の時、とても激しい大雨が降ってきた。

今回はやけに強く、雷も鳴り出した。

そして悪い予感がしたので一気に同化を解き外に飛び出たが間に合わなかったらしい。

私と同化していた大杉に雷が落ちたのだ。

ちやうど近くにいた私も感電し大怪我をおった。

それで終われば良かったのだが大杉が雨の中なのに燃え上がっていた。

すぐに消火活動をしたがそこで魔力が切れ倒れてしまった。

そして目が覚めたら手足が縛られベッドの上にいた…全裸で。  
これでも幼少期からサキュバスをやっていたのだ、これからどうなるかすぐにわかった。

だがもしもを考えた時、こんな嫌な妄想をしてしまった。  
相手がリヨナ好きだったらどうしよう。

だんだんと血の気が引いていき、どうにか出来ないかと回りを見渡した。

繋がれた鎖を見る、これは魔力を封じる仕掛けのあるものだ。  
シーツを見る、非常に肌触りの良い品だ、きつと高級品だろう。  
ベッドを中心に使えそうなものを探していくが鎖の長さに届かない物ばかり。

もうまな板の上の鯉の気分だ。

どうせ死ぬならなにか私がいだという証が欲しくなった。

そう思うと同時にあるものを思い出した。

それは転生掲示板、頭の中で思い浮かべるだけで使える記録媒体。  
どうせこれから何があつて前の私では居られないのだろう、そうなるならいつそこに映し出してしまおう。

そう思い掲示板を起動した。

：

所謂スレ民達との短い交流をしていた時、彼女はきた。

ここにきてまさかのルビーである。

オークやナードといった負の印象のある相手を想定していたあまり、呆然としてしまった。

過去のやり取りから自然と返事が出来たことに安堵したが、これらを思い青ざめた。

ルビーとする、実は全く想像したことが無いわけではないが、あることが頭から離れずとても怖かった。

私は、前世は童貞で今は処女、つまり全く経験がないのだ。

もちろんサキュバスなのでそういう知識もあるし、人間相手から精気を吸い取ることもしたことがある。

だが相手は女性からばかりだったのだ。

それも寝ている相手の上から手をかざして吸い取るような効率的だが味気ない方法だけ。

ルビーには強がった反応をしたが内心は怯えていた。

そしていざ参らんとルビーが自身の股に魔力を送り出した時、私も腹を括った。

ルビーに生えた男根にすぐ挫けそうになった。

どうにか気力を持ち直し覚悟を決めていた時、ルビーが頭を撫で始めた。

どうしたと思いつつもどんどん体の力が抜けていきリラックスしていった。

それからすぐに挿入された。

急な激痛と圧迫感に白目を向いているとルビーが驚愕していた。

「あなた、処女だったの？」

サキュバスは大抵年が15にて我慢できずに他種族の雄と性行為をし始める。

なので24になっても処女だった私をルビーは信じられないのだろう。

実際ルビーもその頃から発情期の犬人とやりあってしたか。

隠れてしていたので私もルビーから隠れてしていたんだと思っていたのだろう。

ただ私は自身の手と鎮静魔法で誤魔化し続けていたのだ。

だがこれは別に意図してやった訳では無い。

ただ…

「…初めては、ルビーが良かった…だけ」

…うっかり声が出てしまったらしい。

それを聞いたルビーは暴走した。

うん、まあ、すごく…凄かった。

…

朝になり、ルビーが一緒に来るよう言っついて行くついでと広間についた。

部下の人たちを呼び全員集めたら私を抱きしめながら、

「私の妻になるエスメラルダよ、知ってるものも多いでしょうけど手を出さないでね♪」  
こう宣言したのだった。

### 第3話

さて、私がルビーの妻宣言されて半日たった頃、事件が起こった。その時私はルビーに言われあの盛りまくった部屋で待機していた。実は朝の宣言のあと、私はルビーにお願いをした。私にも仕事をくれ、と。

素で「私のち○ぽケースはどう？」と言われ引っぱたいてしまった。そういうのは夜にいつぱいするだろ、そうじゃなくて前みたいに私にも部下と同じように仕事をくれと言っているのだ。

それでルビーは動き出し、1時間後には今の私の能力がどれだけ現場で通用するか確かめながら足りないところは研修させる、という具合の私用の仕事場を準備すると言い出した。

大変ありがたいしすごくホワイトだな、と思っている。が、誰がどう見ても特別扱いな状態に少しの嫌悪と罪悪感を感じた。

で、いざそれを始めようとしてもそんな急にできることではないので私はルビーの寝室に案内されてしまった。

そうして待っていると急に壁が吹っ飛んだ。まるで凄まじい力で外から無理やり押し開いたような穴の開け方。敵襲かと警戒しようとしたが、既に遅かった。

それは十代半端程の美少女だった。まるでオーロラのように波打った白い服を身にまとった彼女の背には大きな白色の羽。

そして美しいストレートロングな金髪の上には、この世の幸福が多く詰め込まれたような光る輪っか。

天使が、私の目の前に現れた。

その姿に既視感を感じて脳が無駄に働き始めたが、彼女の声を聞いた瞬間にはもう意識がなくなっていた。

「やっと逢えたね、お姉ちゃん」

：

気がつくとも全面真っ白な部屋にいた。

見慣れない部屋だ、ここにある全てが白色で出来ている。

机も椅子も天井も…そして私の座っているベッドも。

…うん、まただな。

なんなら全裸な所まで一緒だ。

鎖もついてる、左足に1本、それも光で出来ているかのように輝いている。

ここまで一緒だと恐らく私を連れてきたあの天使の動機がわかってくる。

だがそれはあまり実感がない。

確か天使はえっちなことはダメだったはずだ、なぜなら穢れるとか墮天するとか何とか…と昔本で読んだ気がするためだった。

なので記憶から原因になるものはないかと思いついていたら扉が開いた。

「おはようお姉ちゃん、ゆっくりできた？」

入ってきたのはあの天使だった。

何故こんなことをしたのか問いただしたいが、一旦落ち着くことにした。

ここで下手に彼女を刺激しては私の命が危ないと感じたからだ。

私は弱い、だから生存する為に感が異常に鋭くなった。

その感が訴えるのだ、あの女はやばい、前世でいう高校生くらいのあの子は簡単に私を殺せるのだと。

だから私は無難な方法に出た。

「初めまして、サキユバスのエスメラルダです。仲のいい者にはエメちゃんなんて呼ばれたりします」

自己紹介である。

敵を知り己を知れば百戦危うからずとは誰の言葉だったか。

現状は相手を全く知らぬ状態。

ここで情報を多くひり出させ、あわよくば交渉に持ち直したい所。

そうでなくてもあれだけの被害が出たのだ、ルビーがどうにかするまでの時間稼ぎにはなるだろう、多分。



「うん、知ってるよ。お姉ちゃんがエスメラルダって名前もあのメスにエメちゃんと呼ばれてるのも好物がサンドイツやおにぎりみたいな簡単に食べれる物ってこともお菓子は少し苦労してでも自分で作ったりして家族に振る舞うのが好きなことも好きな色がお母さんと同じ髪の色だってことも実は自分の胸の大きさが小さくて便利だと思いつつも他人と比べて落ち込んじゃったりすることもお尻が大きすぎないか気になっちゃうことも脚が結構自慢なことも太ってるんじゃないかと運動を初めて三日坊主になることがよくあることもいっぱいばいっばい知ってるよ?」

.....

怖い。

私は彼女と初対面はずだ。

私が結構気にしてる問題を含めてなんで私しか知らないようなことをこの子は知ってるんだ。

「お姉ちゃんのことはいっぱい知ってるの。だからお姉ちゃんが初めて誕生日プレゼントをしたのがあの女ってことも一緒にお人形遊びをしたことがあるのがあの女ってこともお花の冠を作りあつたのがあの女だけってことも初めての生理で泣きじゃくってしまいあの女に抱きついてしまったことも魔法で痛みや造血をコントロールする淫紋をあの女に付けられていることもお風呂で洗いこした時ふざけて胸を触りあつたりしたのも：キスからナニからナニまで全ての初めてがあのお女に奪われたことも、全部知ってるんだよ?」

なんだこの：まるでその場を見ていたような理解度は。

私は戦慄した、私の危機管理センサーによって極限まで危険だと判断されたのは彼女が初めてだろう。

一刻も早く彼女から離れたいが、足首の光る鎖がガチャガチャいうだけ。

鎖の長さ限界まで下がっても彼女は優しく微笑みながら近付いてくる。

「そういえばお姉ちゃん、あの時は本当にありがとう。危うく墮天するところだった」

そう言いながら急に立ち止まった天使に怪訝な目線を浴びせる。

：そうしないとずっと怯えた目線を送り続けそうだからではない、そんなつもりは全くない。

「覚えてない？あのルビアンナとかいう淫乱に私が攫われた時、ずっと私を逃がそうと必死になってくれたでしょ？」

：いやいやいやいや待つて欲しい。

あの子が？

あの子がこんな、は？

あの私の腕の中で震えていたあの子が、こんな…。

ルビー、あんた何してるの。

あんな純粹で無垢な存在がどうしてこんなおぞましい存在になるきつかけ作ってるの。

もうあんたと寝ないわよ私。

「そうそう、私トパーズっていうの、愛称はパース、末永くよろしくねお姉ちゃん♪」

そうか、彼女はトパーズと言うらしい。

よし、相手の名前とやばい性格は把握した。

ルビー早く何とかしてえ…。

：

そんな願いが都合良く叶うはずがないので無理やり思考を切り替え、どうしてこんなことをしたのか聞いてみた。

「あのね、私はお姉ちゃんのことをいっぱい知ってるの。いっぱい知ったの。だからもうお姉ちゃんの前では全てアレのものになったのも知ったの。だから…だからね？お姉ちゃんの2番目を全部私が貰おうと思って」

：確かこの子は天使だったよな？どうして私たちサキユバスみたいなことになってるんだ？

「もしこれで墮天してもいいの、お父さんやお母さんにちゃんと説明したし、悪魔と一緒にになりたいなら墮天するしかないけど、一緒にされる方法があるだけありがたいことだって二人とも喜んでたもん」

何故そうなる、止めないといけないとこころだろそこは。

「もちろん最初はダメだって言ってたけど相手がお姉ちゃんだって分かったらすぐにOK貰えたんだ」

何故そうなる、私は下級だがサキュバス、立派な悪魔だぞ。

「だって行方不明になった私を傷だらけになりながらも家まで送り届けて最後には良かったって笑って対価も求めずに去っていくんだよ？お父さんもお母さんもずっとお礼がしたかったって言ってたから渡りに船だったみたい」

…まるでマッチポンプだ。

ルビーが原因だが私も悪魔らしくない行動をしたのだと自覚させられる。

私が後悔しながらトパーズに言い訳しようとした時、部屋全体が揺れた。

「もう嗅ぎ付かれたみたい…じゃあ私行ってくるねお姉ちゃん」

そう言つてトパーズは覚悟した表情で部屋を出ていった。

…

649：メス堕ちエメちゃん

という経緯だ

650：名無し転生者

長え

651：名無し転生者

つまり？

652：名無し転生者

まず経緯を喋れとは言ったがこれは…

653：名無し転生者

651>>元凶ルビー様、マッチポンプエメちゃん、サイコの才能

開花天使

654：名無し転生者

略しスギイ！

655：名無し転生者

もつと書くなら天使は親公認済み

656：名無し転生者

でもこの天使、元が天使だけに割とマイルドなサイコだよ

657：名無し転生者

656＞＞マイルド…？

658：名無し転生者

656＞＞どこが…？

659：名無し転生者

656＞＞あ、それわいも思った。結構理性的だよ

660：名無し転生者

656＞＞ふつーに会話出来てる時点でそこまでじゃない

661：名無し転生者

割と意見別れてるんやが

662：名無し転生者

656やで。

ホントにサイコなのは言葉は通じてても話は通じないし、天使ちゃんはまだエメちゃんを尊重しようとしてるから…行き過ぎた行動が明るみに出たファン程度だと思う

もつというならストーカー

663：名無し転生者

悪化はしてないけど改善もしてない

664：名無し転生者

それはそれでこわいんや

665：名無し転生者

てかどうやってあのストーカー天使はエメちゃんのことストーカーしとつたんや？

666：メス堕ちエメちゃん

後で聞いてみる

ひとまずどうにもならないみたいだし急に危なくなってもいいようにライブする

L I V E O N

667：名無し転生者

結論がはやすぎる

668：名無し転生者

そこまで雑談しすぎてしまっていただろうか

669：名無し転生者

解決案の話にすら行けなかったからだと思うが

670：名無し転生者

あの天使が話題になりすぎたんや

671：名無し転生者

だってあんな特大サイズの問題を天使が持ってたとか思わんだろ？

672：名無し転生者

ちなどうするよこの状況

673：名無し転生者

あの光る鎖どうにかしないとどーにもならない

674：名無し転生者

エメちゃんなんか闇魔法みたいなので光の鎖覆ってみてくれー

675：名無し転生者

動きに合わせてちよつと揺れるお胸様

676：名無し転生者

もうエメちゃんの裸は見慣れたのだがそれはそれとして起たねば

無作法というもの

677：名無し転生者

左手でお股隠して照れてるの可愛いね、やってかない？

678：名無し転生者

はぁーエメちゃんペロペロ

679：名無し転生者

レロレロレロレロレロレロレロレロ

680：名無し転生者

そのチェリー(乳首)、実は僕の大好物なんだ。がつつくようで悪いが、僕にいけないか？

681：名無し転生者

だめだ、俺のだけ

682：名無し転生者

じゃあ君は右側をオラオラしてればいい、僕が左側を

683：名無し転生者

いや、駄目だね

684：名無し転生者

もしかして両方ですか？オラオラですか？

685：名無し転生者

Yes! Yes! Yes!

686：名無し転生者

こんなクルセイダーズは嫌だ

687：名無し転生者

実際花京院みたいな舌使いで乳首舐められたらどうなの？教え

てホモの人ー！

688：名無し転生者

687>>乳首を散々焦らされた後にされたらもうそれだけでと

ころ天の助よ

689：名無し転生者

ホモも見とるんかい

690：名無し転生者

パートナーとのマンネリ解消に役立つからね、仕方ないね

691：名無し転生者

なんならスレ主のエメちゃんはレズちゃんだから

692：名無し転生者

レズはホモ、はつきりわかんだね

693：名無し転生者

違う、そうじゃない

694：名無し転生者

さて：なんの話だっけ？

695：名無し転生者

まず光る鎖をどうにかしようって話

696 : 名無し転生者  
忘れてたわw

697 : 名無し転生者

エメちゃんもうそろそろ魔法解いてみてー鎖ボロボロになってないー?

698 : 名無し転生者

なに?!

699 : 名無し転生者

有能がいたのか?!

『なっていない』

700 : 名無し転生者

はい無能

701 : 名無し転生者

この思わせぶりが!

702 : 名無し転生者

待つて、matte☆

試しに思いつきり鎖引っ張ってみて

『…っん…っ?!ちぎれた』

703 : 名無し転生者

はい有能

704 : 名無し転生者

よくやったぞそれでこそ俺らや

705 : 名無し転生者

熱い手のひら返しw

706：名無し転生者

やったぜ

707：名無し転生者

それで、次はどうするよ

708：名無し転生者

逃げるなら今のうち

『逃げない』

709：名無し転生者

…あちゃー

710：名無し転生者

エメちゃん割と正義感強い子みたいだしね

711：名無し転生者

バカだな、でも嫌いじゃないわ！

712：名無し転生者

じゃあ行つてらっしゃい、ライブはそのままね

『大丈夫、いつてくる』

…

『というわけでエメちゃん、あなたは私とパースの共有財産になったわ！』

『ホントは嫌だけど、お姉ちゃんに二度と会えないよりマシだしね。



よろしくエメお姉ちゃん♪  
『なんでそうなるの…』

## 第4話

…ホントに意味が分からない。  
てつきり私はルビーとトパーズが殺し合いをしているのだと思っ  
ていたのだが。

「実際にたわよ？30分くらい」

「で私が負けちゃったの」

では何故トパーズが生きているのか？いや、もしかしてルビーがト  
パーズを殺さずにいる理由がその戦闘の最中であつた、ということだ  
ろうか。

「そうそう。私ね、これでも最強なのよ？サキュバスどころか魔族最  
強。でも他の戦闘に特化した種族の面子を潰すようなことは避けた  
かつたから全力で戦うとか出来なかつたのよ。そんな中この子と  
戦つてたら全力以上を引き出されたのよねえ。もうこの時点でこの  
子のことを気に入つてただけど…」

「お姉ちゃんをお嫁さんにしたいの私も同じだー！と感じに叫びな  
がら殴りあつてたらいつの間にかお互いにお姉ちゃんの好きな所を  
言い合う感じになつちやつて」

「それで意気投合しちゃつたの」

…これは私がおかしいのか？

殺しあつて仲良くなるとか人間の感性が残つてるせいかな全然理解  
出来ない。

「まあそれでこの子、パースちゃんがいか…パースちゃんに賭けに  
乗ってもらつたのよ、「次の一撃で負けた方が勝つた方の言うことを  
聞く」というの。シンプルでしょ？」

「で、私が負けちゃつたからお姉さんの言うことを聞くことになつて」

「私たち二人でエメちゃんを困っちゃおう、て言つたのよ」

「まあ私は実質2番目で落ち着いた状態かな」

「あ、それとパースちゃん、私のことはお姉さんじゃなくてルビーでい  
いわよ？これから好きな人を一緒に愛するんですもの♪」

「はい、じゃあルビー」

「なにー？」

「呼んだだけー」

「そうー」

…急に緩くなった。

そんなこんなで私の誘拐騒動は落ち着いた。

トパーズ：…パースとは割と上手くやれている。

仕事のない日はルビーかパース、もしくは両方と観光に行ったり食事を楽しんだり：まあ、えつちなこともした。

そのせいかパースは羽が真っ黒になり頭の輪っかもなくなった。

そういえばパースはどうやって私の過去を知ったのか質問したが、

「世の中には知らないことの方がいいことが多いんだよ、お姉ちゃん」と、顔を近づけながら言われ、口を開く前にキスされた。

…これ私は一切安心出来ないってことでは？

そのままパースと一晩明けて朝食を作っているときにそう思い至ったが、最強の悪魔（サキュバス）とその次に強い墮天使に体を捧げている状態で言うことでもないと考えた。

さて、そんな状態で過ごしている私だが、これでもストレスを抱えているようだった。

自覚はないのだが眉間にしわがより、ぶつぶつと独り言が増えたらしい。

こんな状態では仕事にも影響が出てくると思い1人で温泉に入りに行くことにした。

1人で、だ。

なんとという解放感、やはり私はぼっちがいいらしい。

まあパースがどこかで監視している状態なんだろうがこの際知ったこつちやない。

むしろなにかトラブルがあれば助け舟を出してくれるだろうしありがたいことだと思う。

そして私が向かっている場所はと言うと、極東だ。

どのような異世界だろうと極東と言えば日本にもものすごく近い、も

しくは和の雰囲気がとても強いことでよく描写される場所だ。

そこまで行くのには専用のテレポート陣の所まで向かわなければならぬが、直接向かうより断然近い。

ルビーもパースも私が極東に湯治に行くことに反対はなく、快く見送ってもらった。

つまり、危険がほぼない土地ということだろう。

それなら私でも大丈夫だろう、注意するとしても精々迷子にならないようにするくらいははずだ。

それにこれでも私はサキユバス、つまり魔法が使えるのだ。

確かに私は弱いが、弱いなりにできることを増やしてはいた。

その中に旅で欠かせないものや役立つものもある。

まあそんなに長居もしないし大丈夫だ。

：

こんにちは、私エメちゃん。

「貴様、何故我らの領地に入った」

「姫様どうします？異国の者のようですがかなりの上玉ですぜ」

「猿はこれだから困る、姫様はそんな下卑なことは考えぬ」

「じゃあ犬はどう思うの？この人脚がとっても魅力的じゃない？」

「確かに脚がいいな、特に太もも。むっちりしてて…」

「ああ、食べ応えがありそうだ」

「違うそうじゃない」

今、桃太郎一派みたいなのと遭遇したの。

…私そんなトラブル体質だった？

【TS】桃太郎と愉快的仲間たち【エロ同人の予感】

1：エメちゃん

早速だがこの状況をどうにかしたい

っ《首に刀が突きつけられた状態のエスメラルダの写真》

2：名無し転生者

前スレからお世話になってます

3：名無し転生者

大丈夫だよ、来世がある

4：名無し転生者

むしろどうしてここからH展開になると思うのだ

5：名無し転生者

てか経緯はよ

6：名無し転生者

はよぶノ。・エ・シ）ノシ バンバン!!

7：名無し転生者

え、イツチもう固定ハンしとるんか

8：名無し転生者

初見さんいらっしやーい

9：名無し転生者

一応注意しとくがここは場合によってピンクに染まるぞ

10：名無し転生者

ああ、百合の花が咲き乱れたと思ったら花束になったりするぞ

11：名無し転生者

( ☒・☒ ) ワケワカメ

12：エメちゃん

簡単にいうと：

湯治のために極東に行く、

温泉探して山をさまよう、

侵入者に間違われる↑イマココ

13：名無し転生者

湯治？そんな体炒めるようなことあったの？

14：名無し転生者

チャーハンになったって？

15：名無し転生者

いためる違いや

16：名無し転生者

何を言っている、俺らの息子があんなにお世話になったというのに

17：名無し転生者

ふたなりだけでなく貝を合わせるだけとか胸のポツチをこすり付け合うとかそれだけでもう…

18：名無し転生者

その…下品な話…勃起…しちやいましてね…ふふ

19：名無し転生者

でちようど物足りなくなってきたらマール様召喚のずこんずこんよ

20：名無し転生者

なおこんなことしてる間もエメちゃんは命の危機なのだ

21：名無し転生者

もうこの際、1回休みでもしたら？

22：名無し転生者

淫魔と墮天使にトンネルされる状況を捨てるなんてもったいない

23：名無し転生者

是非ともかわりたい

24：名無し転生者

やれる代わりにやられるぞ

25：名無し転生者

アーツ!!

26：エメちゃん

実はもう命がかかった状況に慣れてきたし、死ぬことに抵抗も無くなってる

が、ルビーやパスと別れるのはもつと後がいいから誰か知恵を貸

してくれ

27：名無し転生者

といつてもねえ

28：名無し転生者

タダでは：のう？

29：名無し転生者

もうわかってるんだらうう？

30：エメちゃん

相手いないから1人オニーライブする

これが対価でどう？

31：名無し転生者

やったぜ

32：名無し転生者

とんでもねえ、ありがてえ

33：名無し転生者

じゃあ考えましようねえ

34：名無し転生者

でもどうするよ？

35：名無し転生者

エメちゃん割とクソザコだしな

36：名無し転生者

比較対象が種族最強（エメちゃん曰く）だから多少はね？

37：名無し転生者

てか相手は1人なん？

38：名無し転生者

複数に囲まれてるならもう諦めよ

39：エメちゃん

人間は1人

40：名無し転生者

：つまり他は人間じゃないと

41：名無し転生者

もう終わりや

42：名無し転生者

てか相手側全員画像うpしろよ

43：エメちゃん

ぽいつ 《巨大な犬、猿、孔雀を背に刀を構える黒髪の女性の写真》

44：名無し転生者

ほう、黒髪ポニテとは…

45：名無し転生者

天災な姉もってそう

46：名無し転生者

好きな人がハーレム作ってそう

47：名無し転生者

すぐ暴力振るってきそう

48：名無し転生者

掃除道具みたいな名前してそう

49：名無し転生者

その割にはお胸様が小さい希ガス

50：名無し転生者

でもなにあの鎧、いくらなんでもへそ出しとかえつちじゃん

51：名無し転生者

ジンオウ亜種の女剣士装備っぽい

52：名無し転生者

そーいやそんなゲームあったなー

53：名無し転生者

俺我らの団専属ハンター

54：名無し転生者

ポツケ村こそ我が故郷

55：名無し転生者

村長が昔一角竜とやり合ったとかよく聞いたよ

56：名無し転生者

モガ村の受付嬢が私の初恋でした



57：名無し転生者  
それに比べて受付ジョーはよお

58：名無し転生者

そうか？俺は好きだったぞ、実にあの世界らしい人物じゃないか

59：名無し転生者

まあもう現実に戻ろうぜ、俺らにはもうPSPもDSもねーんだから

60：エメちゃん

やめろ、泣いちやつたから相手がオロオロしちゃつただろ

61：名無し転生者

何それ笑う

62：名無し転生者

そのまま泣き落としたら？

63：名無し転生者

いや、素直に状況説明すれば逃がして貰えるかもしれないだし下手なことはするんじゃない

64：名無し転生者

ところでエメちゃんの泣き顔見れたりしない？

65：エメちゃん

っ 《泣き顔のエスメラルダ》

66：名無し転生者

うっ…ふう

67：名無し転生者

うっ…罪悪感

68：名無し転生者

うっ…ふう

69：名無し転生者

うっ…ふう

70：名無し転生者

もっと顔にアザつけたりして貰えたりしない？

71：名無し転生者

おいヤベーのいるぞ

72：名無し転生者

良心的なの1人しかいなかったんだが

73：名無し転生者

そいつも抜いてる時点でアウト

74：名無し転生者

ではエメちゃん、こちらからは素直に話す、で

75：エメちゃん

りよ。

：

190：名無し転生者

今更だけどあの獣達はよかったのん？

191：名無し転生者

なんぞ？

192：名無し転生者

ほら、対策とか

193：名無し転生者

多分むり、あれ神獣の類だろうし

【TS】桃太郎と愉快的仲間たち【エロ同人の予感】2

359：名無し転生者

いやー生エメちゃんは最高でしたね

360：名無し転生者

すっかりクパアしてカメラに見せてくれるのありがたい

361：名無し転生者

最初に比べてリクエスト応えるようになってくれて嬉しいグへへ

362：名無し転生者

てか結局あのポニテ侍とどういいう状態になったのかね？

363：名無し転生者

(監視が必要な) お客さんみたいな感じ

364：名無し転生者

厄介者扱いじゃんじゃん

365：名無し転生者

でも露天風呂付きで泊めてくれてるしいいでない？

366：名無し転生者

せやな

367：エメちゃん

おはよう

368：名無し転生者

おはー

369：名無し転生者

おっはろー

370：名無し転生者

ぐっもーにん

371：名無し転生者

昨日はお楽しみ共有ありがとう

372：名無し転生者

次は何してもらおうか：

373：エメちゃん

ひとまず今日の予定

帰宅、以上。

374：名無し転生者

二文字w

375：名無し転生者

なに、そんな（仕事）溜まってるの？

376：名無し転生者

じゃあ（お仕事）解消してあげよう

377：名無し転生者

おじさん達が手とり足とりまんとりするよ

378：名無し転生者

欲望が抑えられない哀れな独身男性

379：名無し転生者

は？既婚者だが？

380：名無し転生者

379＞オマエヲコロス

381：名無し転生者

379＞デデンツ!!

382：名無し転生者

379＞Are you ready?

383：名無し転生者

殺意高杉案件

384：名無し転生者

待つて、379だけど、私女だからな

385：名無し転生者

証拠を見せろよ証拠をー!!

386：名無し転生者

パイパイの画像で許しちやる

387：名無し転生者

さあ晒さんかあっ!!

388：エメちゃん

はいストップ

389：名無し転生者

おお、とうとうスレ主ストップが来たか

390：名無し転生者

説明しよう!!

スレ主ストップとは、スレ主が指定したスレ民がスレを書き込めなくなるスレ主の特権である!!

書けなくなる条件は細かく定めることができ、どこまでもスレ主の想像通りに再現できる!!

391：名無し転生者

解説乙

392：名無し転生者

でもそれって人こなくならない？

393：名無し転生者

大丈夫、宇宙を何もせず数百年漂うだけの転生者もおるから

394：名無し転生者

：（　　）？　　：ヒエツ

395：名無し転生者

カーズ様にでもなったんか？

396：名無し転生者

とりま脱線しすぎたから元に戻そう

397：名無し転生者

気になる

398：名無し転生者

樹になる

399：名無し転生者

このー木なんの木

400：名無し転生者

このデイトだっ!!

401：名無し転生者

貧弱貧弱っ!!

402：名無し転生者  
ゲロ以下だっ!!  
403：名無し転生者  
ごめん今来たけどなにこれ  
404：名無し転生者  
デイト様MODコンボ  
405：名無し転生者  
間に挟まってくるんじやあねえ!!  
406：名無し転生者  
D4Cされちゃう  
407：名無し転生者  
するの間違いでは？  
408：エメちゃん  
とりあえずもう転移紋のどこまでこれた  
案内してくれたポニテ姫ありがと  
409：名無し転生者  
アイエエエ?!  
410：名無し転生者  
移動速くなーい?!  
411：名無し転生者  
お土産は？大丈夫？  
412：エメちゃん  
温泉たまごにまんじゅう、あとクッキー  
413：名無し転生者  
クッキー☆だって?!  
414：名無し転生者  
やめろ流すんじゃない  
415：名無し転生者  
クッキー☆ボタンを押しちゃうのだ!  
416：名無し転生者  
クッキー☆流すのやめなさい

417：名無し転生者  
わあは  
418：名無し転生者  
でも流そうにもここにはもう上質で淫乱な百合があつてだな  
419：名無し転生者  
ところでさつきずんだ餅と貧乏人いなかった？  
420：名無し転生者  
いなかったのだ  
421：名無し転生者  
そうなのだ  
422：名無し転生者  
へケツ  
423：名無し転生者  
なんだ、とつとこのほうか  
424：名無し転生者  
だーい好きなのはー？  
425：名無し転生者  
レ○プ!!和姦!!わからせ!!  
426：名無し転生者  
おい：おい  
427：名無し転生者  
さては寝取りも大好きだなお前  
428：名無し転生者  
E x a c t l y (その通りでございます)!!  
429：エメちゃん  
ストップ  
430：名無し転生者  
あ、エメちゃん寝取り嫌いなんか  
431：エメちゃん  
いや現状の私だと笑えない状態だから  
432：名無し転生者

- ああ：天使ちゃん目線だとそうなるか  
433：名無し転生者  
てか前説明聞いたけどよくあれで和解したよね  
434：名無し転生者  
エメちゃんを女、ルビー様と天使ちゃんを男の配役で考えると：  
435：名無し転生者  
クソ辛い  
436：名無し転生者  
俺が天使ちゃんなら何がなんでも傾す  
437：名無し転生者  
辛いから性別反転させて考えるわ  
438：名無し転生者  
それはそれで背中刺されそう  
439：名無し転生者  
伊○誠ちね  
440：名無し転生者  
何度転生しても無くならない殺意はあるのだ  
441：名無し転生者  
では全員男で考えてみよう  
442：名無し転生者  
：何故か男塾つぼくなつちやつた  
443：名無し転生者  
「(´^o^)」ホモオ：  
444：エメちゃん  
帰宅  
つ《ルビーとトパーズに抱きしめられているエスメラルダ》  
445：名無し転生者  
「(´ω´)」ユリイ：  
446：名無し転生者  
おい、画像をしつかり下まで見たまえ  
447：名無し転生者



おや、何かがスカートを押し上げてエメちゃんの太ももに当たってるな

448：名無し転生者

さてなんだろーなー

449：名無し転生者

とりあえずライブはよ

450：エメちゃん

どうやらたった2日で我慢出来なくなったようですまた疲れなきやいけないのか？

Live one

451：名無し転生者

ああ：ありがたや

：

「そういえばルビー、どうしてお姉ちゃんを1人で行かせたの？」

「簡単よパスちゃん：1人でやってる所を盗撮するためよ♪」

「なるほど：じゃあどうやってしたの？私みたいなのなかったよね？」

「そんなの念写でちよちよいよ、簡単だったわ」

「：思いつかなかったや」